

J-2

## 都市内における貧困密集地区の生活改善に関する調査研究

フィリピン・セブシティ・バランガイ・ルス地区を対象として

Research on Better living poverty dense district in the city.

As a target the Philippines, Cebu City Barangay Luz district

○大川薫平<sup>1</sup>, 畔柳昭雄<sup>2</sup>, 菅原遼<sup>3</sup>\* Kumpei Okawa<sup>1</sup>, Akio Kuroyanagi<sup>2</sup>, Sugahara Ryo<sup>3</sup>

Abstract: This paper was for those who live in Barangay Luz district, shows the survey results for the development of new residential that is possible to cheaply and easily construction. We were asked to cooperate in Barangay Luz leader of the Philippines-Cebu City. Residents and their residence we went to investigate. It was investigated in July 2015. 1st, residence of the actual conditions. 2nd, situation of infrastructure. 3rd, Population density of Barangay LUZ and Barangay of Cebu City. It was investigated three items.

## 1. はじめに

フィリピンの都市内には地方の農村部から仕事を求めて流入してきた人々により形成された「バランガイ」と呼ばれる貧困密集地区がある。セブ州の首都セブ市の場合、市内には 80 程のバランガイが存在し、多くは Figure1. に示すように CBD 地区に集塊し、郊外では点在した分布になっていることが分かる。

その中の 1 ヶ所であるバランガイ・ルスでは、過去 4 年間 3 回の火災が発生し 2012 年には 200 軒が消失し、2014 年の 10 月、12 月の大火ではそれぞれ 150 軒程が消失している。この地区は火災が発生した場合、住宅密集度が他のバランガイと比べて高く、密集度に合わせて道路も狭隘なため、消化活動が困難を伴い、火災の度に延焼が起き、火事が地域に燃え広がることで焼失面積を大きくしている。火災後の写真を Figure2. に示す。

## 2. 研究目的

本稿では、火災にあったバランガイ・ルスの住宅再建と街の復興を目指した新たな生活のための環境形成を図るため、現状把握のための現地調査を行った。

## 3. 調査概要

バランガイ・ルスでは議員が 7 名とバランガイホールと呼ばれる NPO 活動の拠店が置かれている。現地調査は、こうした関係者の協力の基に①ルス地区の概要把握、②住居の実態把握、③インフラの状況の 3 つについて調査を行った。調査日程 2015 年 7 月 24 日～26 日まで 3 日間。

## 4. バランガイの人口密度

Figure3. にセブ市内のバランガイ 20 ヶ所を示す。セ

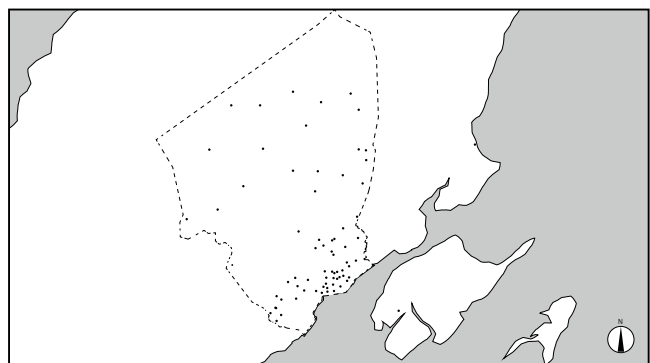


Figure1. Position of Cebu City Barangay



Figure2. Sky photograph after fire in 2014

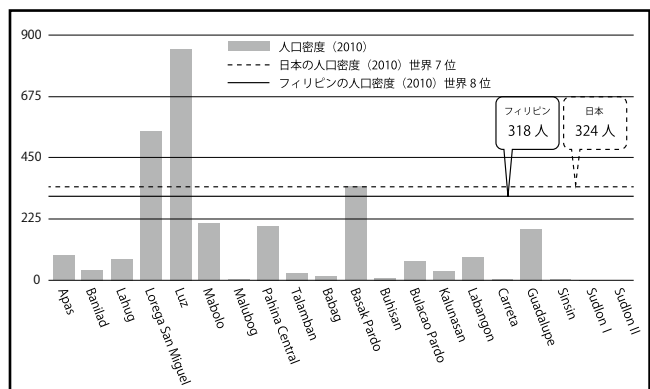


Figure3. Population density of Barangay

1: 日大理工・院(前)・海建, CST, Nihon-U. 2: 日大理工・教員・海建, Prof, CST, Nihon-U., Ph.D.  
3: 日大理工・教員・海建, Assistant Prof, CST, Nihon-U., Ph.Dr. Eng.

Table1.Position of the barangays of Cebu City

	家族構成	職業	水道	下水	ガス	電気	台所	トイレ
No.1	8	靴・カサ修理						○
No.2	7	工員						○
No.3	4	調理師	○	○		○	○	○
No.4	5	on call	○			○	○	○
No.5	10(2家族)	公務員	○	○		○	○	○
No.6	10(2家族)	工夫				○	○	○
No.7	21	無職	○	○	○	○	○	○
No.8	5+家政婦	無職	○		○	○	○	○
No.9	5	警察官				○		
No.10	4	学生	○					○
No.11	10	無職		○	○		○	○

ブ市の人口は 866.171 人 (2010 年) で, ルスの人口は 16.923 人余りで, 自市内の人口の 2% 程をルスが占めている. また, ルスの地区面積は約 20ha, 人口密度は約 846 人となり, フィリピン全土 (318 人) と比べても密集状態の高いことが分かる.

5. ルスの住居とインフラ整備

ルス地区はさらに小規模な 16 のシティオ小住居区に別けられており, その内のアベリアナ区の 11 軒を調査した. 各住戸の概要を Table1. に示す. また, 実測調査した住居の間取りを Figure4. に示す. 調査を行った住居は, 火災後に再建されて概ね 10 ヶ月が経過している. 地区は火災後に区割りや道路敷設などの再整備歯なされていない. そのため, 再建された住居は規模は元の敷地を活用したもので, 建物は仮設によるものから本格的な再建住居まで多様性を見せる. その中で, 各住居では, ①一住戸あたりの世帯人数が多い, ②1 階ブロック造, 2 階木造の混構造が多い, ③水道, 下水 (便所) 電気の引き込みや敷設は各住戸により異なる. ④住戸の空間構成は壁の共有が多い.

6. まとめ

ルス地区では, モザイク状に住居が建て込むため, 再び大火が発生すると延焼は免れない. 地区の生活改善を促すためには区画整理と道路などの社会基盤整備の充実が不可欠であり, 基盤整備後に防火や耐火に対処して住戸整備を行う必要がある.

7. 参考文献

[1] 小早川裕子:「スラムコミュニティの開発過程に関する研究」, 日本都市計画学会 都市計画論文集, No.44-3, pp.613, 2009 年.  
 [2] 後藤美樹:「フィリピンの住民自治組織・バラングアの機能と地域社会」, 国際開発研究フォーラム, Vol.25, pp.61, 2004 年.  
 [3] Figure2.,URL : (www.sunster.com.ph)

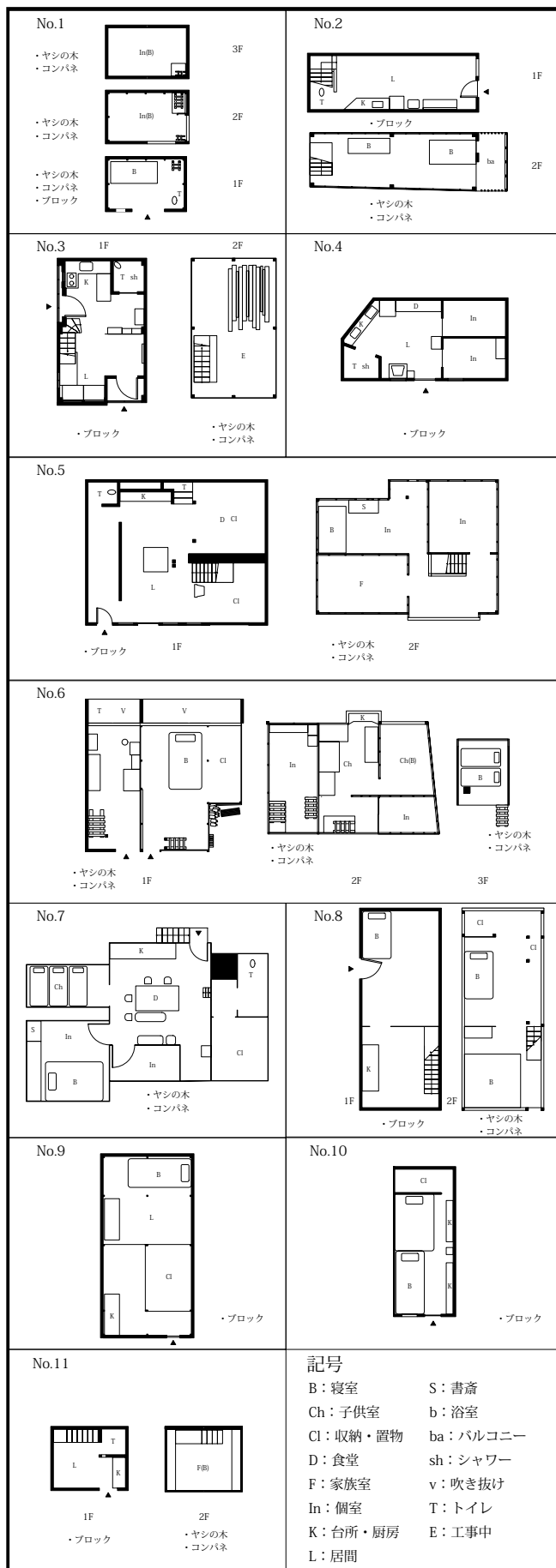


Figure4.Barangay Luz housing